

会議録様式

審 議 会 名	令和3年度第2回杉戸町総合振興審議会
開 催 日 時	令和3年7月30日（金） 午後1時30分～午後4時20分
開 催 場 所	杉戸町役場第2庁舎2階第1・2会議室
会 議 の 議 題	(1)「杉戸宿魅力発信推進計画」に係る事務事業評価 (2)「杉戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略」掲載事業に係る意見交換 ・空き店舗の利活用の推進 ・アグリパークゆめすぎと観光・交流拠点機能強化事業 ・仕事と子育ての両立支援事業
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開 （公開の場合傍聴者数 3人）
	（非公開の場合理由）
出席委員氏名	【出席委員】 高橋明、大橋登喜夫、板橋昇、鈴木豊、宮野尾政子、 金久保繁、坂本吉江、水野順子、齋田修、伊藤庸一、 菊地信一、高橋善夫、新井晃、倉持勝義 【欠席委員】 佐々木誠
審 議 の 概 要	(1)及び(2)について審議等を行った。 詳細は別紙のとおり。

【意見・質疑等】

(1) 「杉戸宿魅力発信推進計画」に係る事務事業評価について

質問・意見①

(委員)

資料1の1ページ目にあるKPIのうち「杉戸宿まち歩き参加者数」について、平成28年度は749人となっていましたが、年々減少してきています。減少したことについて分析が必要と思いますが、どのように考えていますか。

また、2ページ目の主管課評価のうち、官民協働では「学校や地域と連携」とありますが、学校との連携は何を想定されていますか。具体的な内容を教えてください。同じく政策間連携について、テレビ等ではオンラインやSNSを活用してマルシェに相当する商取引や活動も行われていることの情報もありますが、杉戸町のマルシェはどのくらいのメリットがあり、どのようなことを狙っているのか、あるいは実績はどのようになったのか、お聞きしたいです。また、「各分野における事業を一体的に実施」とありますが、具体的な複数の事業の説明がほしいです。

(商工観光課長)

まち歩き参加者数につきましては、平成28年度は杉戸町開宿400年記念イベントの実施により、実績値が大きく伸びたものと考えております。翌年以降は、通常ペースに戻ってまいりましたので人数が減少してきたと考えております。案内人の会の皆さんは新たな宿場の魅力についても発掘をさせていただいておりますが、なかなか新しい魅力を生み出すことが難しい状況です。案内人の会では、杉戸宿のほか、御成街道や泉地区の古墳や出土品なども宣伝し、まち歩きの参加者増加に向けて努力をされていますが、杉戸宿の新たな魅力を発見できていないことが、人数が増えない要因であると考えております。

次に、官民連携の取組となる学校との連携につきましては、流灯まつりで欄干に飾る灯籠の絵について、子ども会の協力を得て小学生に描いてもらっています。現在、子ども会の活動自体が難しい状況となっておりますので、今後、子ども会への協力が難しくなってしまうことを心配しております。このため、学校との連携を図りながら、見る祭りから参加して楽しめる祭りへと変えていく必要があると考えております。

次に、マルシェにつきましては、魅力発信拠点施設が建設される前の古い建物があつた頃は、年に数回ほど開催しておりました。新たに建設した魅力発信拠点施設では、防火上の問題から建物内での利用は制限が生じますので、現在は、古利根川の護岸コンクリートの場所を活用するなど、ほかの場所でもマルシェを開催しております。現在、町が創業支援として実施している月3万円ビジネス講座の卒業生メンバーが中心となり運営をしておりますので、今後は当該施設を活用できるマルシェの企画を求めていくなど、色々な活用をしてまいりたいと考えております。

次に、政策間連携につきましては、当施設は利用の都度、町職員が扉の開閉をしており、常時の施設利用は難しい状況となっております。今年度から観光案内所の機能を当施設へ移転しまして、水曜日・木曜日以外は常に施設が開いております。また、今年は流灯まつりが中止となりましたが、8月に大型灯籠を護岸に設置して点灯する観光イベントの開催を検討しているほか、河川の活用や杉戸宿の拠点としての活用、農産物の販売を行う場所などに活用していきたいと考えております。

質問・意見②

(委員)

資料に記載の「ミズベリングすぎと」とは、どのような活動ですか。

(商工観光課長)

国土交通省河川局では水辺の活用を推進しており、町では「古利根川活用推進協議会」という組織が「ミズベリングすぎと」の愛称により、活動をしています。

「ミズベリング」は「水辺」と現在進行形の「ING」を加えた造語でございます。河川区域は誰でも自由に使えるものとなっておりますが、全国的にも利用は進んでいない状況です。杉戸町では、歴史ある古利根川流灯まつりや、川沿いに川魚料理屋が軒を連ねているなど、川に親しみを感じられる地域となっております。昨年度に河川の工事が終了し、新たに護岸ができたことで水辺に近づきやすい環境となりました。駅から近い場所にあるため、これからも杉戸町の観光スポットとして活用できると考えております。ミズベリングすぎとでは、町ホームページやSNSなどで情報を発信しておりますが、新しい生活様式に適応できる観光情報を発信していきたいと考えております。

質問・意見③

(委員)

ミズベリングすぎとの事業は護岸工事が終わったことで本格的に実施ができるようになったという理解でよろしいですか。K P Iにある参加者数、創業件数、来店者数は観光系の数字になると思いますが、交流人口の促進を目的としたミズベリングすぎとの取組が、どちらの数字にどの程度反映しているのか教えてください。

(商工観光課長)

3つのK P Iは、計画書を作成したときに設定した指標となります。実績においては、新型コロナウイルス感染症による観光への影響が大きく、目標達成に至らなかったものと判断しております。以前は観光入込み客数が多いことが良い結果として評価されましたが、今は人数を集めること自体が問題となります。コロナ禍が続く中で、今後は量ではなく質を変えていく必要がありますので、水辺の活用などによる新しい取組も進めながら質の高い事業の実施を考えております。

(委員)

実績調書の目的に「交流人口の拡大」についての記載がありますので、経常的に実施していくことが必要になると思います。

質問・意見④

(委員)

自立性と官民協働についてお聞きします。自立性については、民間主導を目指していくことに対する評価と理解してよろしいですか。自立と協働では相反するようにも感じ、評価が難しいと思いました。また、意見シートは国から求められた様式でしょうか。

(事務局)

意見シートの「自立性」、「官民協働」及び「政策間連携」は、参考資料の地域再生計画を作成する際に町の目指す取組についての内容を記載しておりますので、この3つの視点について委員の皆様から意見を求めたく、独自に作成した意見シートを使用しております。

自立性につきましては、本来の自立性とは、例えば、町の補助金等が無くでも独

自に事業を展開していく、町に頼らず運営をしていけるか否かが自立性の意味だと思いますが、町の事業について町から独立して実施していくことは難しいため、「町の事業として定着していけるか」、「今後も続けていける事業か」を評価の視点としました。また、官民協働につきましても、行政のみで独自に進めてしまっているのか、地域の住民や団体と一緒に実施しているのか、また共感を持たれている事業となっているのかを、評価の視点としております。

質問・意見⑤

(委員)

初めに、意見になりますが、過去にまち歩きに参加し、杉戸宿案内人の会の方から案内を受けたことがあります。一生懸命に説明をされていると感じましたし、長年、町に住んでいます却不知道ばかりで、説明を聞いて町の魅力を感じたことを覚えております。しかしながら、いずれは参加者が減りかねないと個人的に予感しておりました。理由として、歴史に関してある程度の素養や教養、知識をお持ちでないという案内を聞いても十分な理解が難しいと感じました。また、年齢層の高い方や歴史に興味がある方へ向けた案内だと思いました。

一方で、商工観光課長から説明のありましたSUP体験やカヌー教室は、体を動かすことが好きな方や、比較的若い方には好感の持てる事業だと思いました。商工観光課の立場から、どの辺りに焦点を当てて魅力を発信していくのか、また再び町に遊びに来てもらうのか、幅広く深く研究していく必要があると思います。これからの時代を考えると子ども達も巻き込むことができ、家族と一緒に参加できそうな魅力発信があれば良いと思います。

また、様々な場所においてSNSを通じた情報発信がされています。町では色々なことが実施されておりますが、町民は知らないことも多いです。必要とする情報を住民が探しにくいような情報発信から、SNSを通じて誰にでも情報が入ってくるような情報発信へと広がっていければ良いと思います。

次に、質問となりますが、川を挟んで杉戸町側の活動だと感じました。宮代町の方も巻き込んで実施していく考えがありましたら教えてください。

(商工観光課長)

古利根川は杉戸町と宮代町との行政境となっておりますが、川のはつらつプロジェクトにより整備した護岸は杉戸町側となります。現在、宮代町とも様々な意見交

換を行っていますが、東武動物公園駅西口の商業施設が秋にオープンすることから、人の流れを駅東口側にも広げていくための連携が必要と考えております。駅東口通り線の拡幅工事や旧杉戸小学校跡地の再編に合わせて、古利根川の活用や杉戸宿のまち歩きについても、宮代町や事業者・商店と連携していきたいと考えております。また、同じ河川流域となる春日部市とも連携した水辺の活用を検討しております。

質問・意見⑥

(委員)

コロナ禍において数字による実績を出すことが難しいと感じておりますが、流灯ふれあい館は、予定として365日のうちどのくらいの利用を予定されておりましたか。

また、水曜日と木曜日以外は町職員がいるとのことですが、1日にどのくらいの方がどのような用事でいらっしゃるのか、イベントがないときでも住民が施設で楽しむことができるのでしょうか。用途が倉庫であるとの説明がありましたが、屋内の使用ができない状態では利用件数も増えていかないと思います。用途変更をする考えはお持ちですか。

(商工観光課長)

施設の使用について具体的な数字は出しておりませんが、流灯ふれあい館では、大型灯籠を作成しているほか、月2回程度の絵画教室や月1回のカヤックを使った川の清掃活動に使用しております。コロナウイルス感染症の影響がなければ色々なことが実施できると考えております。

次に、観光案内所への来場者につきましては、日光街道杉戸宿の御宿場印を購入される方が多いです。観光案内所の看板を見て覗かれていく地域住民の方もいらっしゃいます。今まではシャッターが閉じていた施設でしたが、現在は色々な方にお寄りいただいております。現在、大型灯籠を50基ほど屋内に並べておりますので、展示会として自由に見られる環境となっております。

また、用途につきましては、現在の施設は倉庫のため内壁も断熱素材もございません。人を集める施設とするためには消火用スプリンクラーなどの設備を設置する必要があります。用途変更に必要な手続きについて県の住宅検査センターへ問い合わせましたが、壁や天井を張り、内部の区画を明確にする必要があるなど、多額の改修費用を伴うことから、早期の実現は難しい状況です。

質問・意見⑦

(委員)

意見となりますが、数年前に町内の「うどんの梅喜」さんの建物を利用して、観光客を相手にうどんを出していたと記憶していますが、あのような活動は継続的にできないものでしょうか。杉戸宿グルメとして杉戸農業高校の生徒が「たまふわ」の商品開発を行いました。一時的にヒットしたものの継続性がないので段々と盛り上がりは失われてしまいました。町が支援を続けていただければ販売も続きますし、新たに販売してくれる人も出てくると思います。例えば、鴻巣市では川幅うどんが有名ですが、杉戸町ではそばを栽培されている方がいらっしゃいますので、そば粉を使った商品の開発などもあればよいと思っています。観光客を食べ物で引き込むことができれば、リピーターの獲得にもつながると思いますので、商店が町グルメを始めた場合に町が支援をできれば、継続的な商品になると思います。

(商工観光課長)

「うどんの梅喜」さんは、宿場まつりのときに杉戸農業高校がグルメ開発した「たまふわ」関連の商品を限定販売する会場として使用させていただきましたが、普段は高齢者サロンの場所として利用がされています。以前はカレーで地域を盛り上げようとしたこともありましたが、継続できずに自然と消滅してしまいました。一過性のイベントにならないような仕組みを検討していく必要があると考えております。

質問・意見⑧

(委員)

水辺の活用が魅力の1つとなっておりますが、川が汚れていては魅力も下がってしまいます。川がきれいになったことをPRしていくことが大切だと思いますが、魅力あるものとしていくための方策は取られているのですか。

(商工観光課長)

平成の初期の頃に、流灯まつりの準備等で古利根川に入ることがありましたが、ひざ下くらいまでヘドロが溜まっており、大変臭い匂いがしていたことを記憶して

います。

現在では、古川橋や清地橋付近の水辺で匂いはあるものの、ヘドロはほとんど無いと感じております。利根川の水が葛西用水路を通過して流れていく過程で、余った水が古利根川に流れていることや、生活排水等の減少もあり水質自体は非常に改善されていると思われまます。利根川から入る水は泥水となりますので山間部の清流のようにしていくことは難しいですが、カヌーやSUPの活動などにより綺麗な川をPRしていきたいと考えております。

質問・意見⑨

(委員)

意見となりますが、資料にある流灯ふれあい館の写真では、この場所が流灯ふれあい館であることが分かりません。大きな看板の設置やシャッターに名称を書くなど、誰もが分かる表示があると良いです。

(2) 「杉戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略」掲載事業に係る意見交換

① 空き店舗の利活用の推進

質問・意見①

(委員)

空き店舗の候補地が数件あると伺っていますが、早めに具体的な場所を教えてください。利用を希望する方への周知や、利活用を早く進めて行く必要があります。商工会では、起業した後の支援はできますが、空き店舗自体に直接の支援ができません。しかしながら一緒に協力していきたいと考えております。現在、空き店舗の物件数は何件くらいあるのでしょうか。

(商工観光課長)

市街地整備推進室を中心に、空き物件のオーナーの方に対してリノベーションスクールへの御理解を求めています。リノベーションスクールは県内では草加市やさいたま市岩槻区で開催されていますが、同様の取組を杉戸町でも開催したいと考えており、東武動物公園駅周辺まちづくり構想の中で位置付け、検討をしております。リノベーションスクールでは、利用する空き物件を決めていきますが、最終的には新たなプレーヤーがその場所で創業するため、不動産オーナーの方との仲介を

どのように進めて行くべきかなどの内容も詰めていく必要があります。また、創業後の融資や支援についても必要となりますので、商工会の協力を得ながら進めていきたいと考えています。

なお、リノベーションスクールでは、最大3ユニットとなりますので、物件数は3物件となります。不動産オーナーの御理解や建物の状況、立地などにより適した場所の物件を活用していく予定です。

質問・意見②

(委員)

古民家の活用について、渡辺金物屋は今後も活用する機会があると思いますが、瓦屋根であるため重い屋根となっています。地震対策などはされているのでしょうか。

(商工観光課長)

おそらく、現状では何も対策は取られていないと思います。現在、「生活クラブ」さんが月に数回程度、店舗として利用されているようですが、耐震などの対策は取られていないと思います。町がどのような活用をしていくのか、耐震の問題なども含めて、日本工業大学の専門的な意見などをお聞きしながら進めて行く必要があると考えています。

質問・意見③

(委員)

新たな対策を講じることや新しい考えを推進していくためには、実績の分かる確実な資料が必要になります。これまでの空き店舗や空き家の実数はどのくらい把握されていますか。また、地図上でどの辺りに空き家、空き店舗、空き地が発生しているのか、あるいは家屋の状況などの実績データをどの程度お持ちですか。

また、杉戸まち歩きメンバーの方がまち歩きをしている際に、古民家を見つけていると思いますが、すばらしい古民家の場所を地図に記して、いつ頃の家か、どのような使われ方をしているのか、データを持つべきと思います。

(商工観光課長)

資料の見える化につきましては、中央地区の一部の区域では件数の把握をしておりますが、地図に落とすことまでは出来ておりません。また、築年数や構造、どのように使われてきたかなどの調査は行っておりません。

町内では角穀や渡辺金物店の他にも寺社や渡辺邸、関口酒造など古い建物があり、町の観光案内マップに掲載をしております。案内人の会ではマップをもとに現地で説明をしている状況です。最近では町内の古民家1件が解体されたことや、渡辺金物屋の壁が危険な状態になっていることを把握しています。

質問・意見④

(委員)

意見になりますが、空き店舗や古民家などの利活用について、税制上の優遇措置により提供を求めることも考えてみてはいかがでしょうか。東京の方では、地区の祭りに参加することを条件に家賃を安くして学生をマンションに入居させたそうです。家賃を安くすることは結局、固定資産税を下げることに変わらないと思います。学生は家賃が安価であれば入居希望者は増えてきます。このようなことも他の自治体では実施をしていますので、税制上の優遇についても検討をしていただくと、空き店舗の利活用につながると思います。

② アグリパークゆめすぎと観光・交流拠点機能強化事業

質問・意見①

(委員)

消費者の立場として質問をしますが、朝9時頃にアグリパークの直売所に行くと野菜が少なくなっています。既に売り切れてしまっているのか、初めから入荷していなかったのか分かりませんが、棚に空きが出来ていることもあります。生産者の高齢化や収穫の時期もあると思いますが、種類も少なく感じました。買い物に行っても商品棚に空きがあると寂しく感じますが、商品の陳列や販売などについての考えをお聞きします。

(農業振興課長)

アグリパークでは開店前から買い物客が並んでいる状況であり、開店まもなくの時間で商品が無くなることもあります。9時から10時にかけての時間帯がピークと

なり、以降は徐々に来店者が減ってきます。このため町では、お昼の時間帯と3時頃の時間帯を新たなピークとしていきたいと考えております。ピークがいくつもあることで常に来店者で賑わい、品数も豊富になると思いますし、品数が多いことが1番の魅力だと考えております。直売所は基本的には産地形成促進施設となりますので、地元の野菜販売を原則としています。不足する野菜は近隣市町から仕入れておりますが、お米を含めて40%くらいは杉戸産となっております。御指摘のように、棚に空きが生じないようにしていきたいと考えております。

(委員)

尻すぼみということになってしまうのでしょうか。

(農業振興課長)

尻すぼみとは考えておりませんが、生産者も作物もちょうど端境期に来ていると感じております。しかしながら必ず上昇していくものと期待をしております。そのためには町の支援も必要と考えております。

質問・意見②

(委員)

私は毎日、朝8時にはアグリパークへ出荷をしていますが、生産者は70歳台の方が多くなっています。時期により商品の種類が少ないこともありますが、種類を増やしていくことは難しいと感じています。

また、トイレについて他の道の駅では立派な造りとなっております。国道沿いの他の道の駅と同等であることを国に認めてもらい、支援を得ることが出来ればよいと思います。

(農業振興課長)

トイレを改修する際に、訪日外国人の農業体験施設として、インバウンドに関する国の補助金を申請しましたが、文化財ではないことから補助金の交付決定には至りませんでした。また機会がありましたら活用していきたいと考えております。

質問・意見③

(委員)

意見となりますが、離れた場所にあった花屋が直売所の近くに移転したところ多くの方が花を買っているそうです。花の種類も増えているようですし、良いことだと思います。

質問・意見④

(委員)

課題・今後の目標に記載の「低予算で実施できる(有)アグリパークのソフト事業」について、現在、考えていることがあれば教えてください。

(農業振興課長)

コロナ禍では、イベントに多くの来場者を集めることが難しくなっています。アグリパークは農業公園として、広大な芝生広場や噴水があり、親子3世代で遊べるテーマパークとしての魅力を持っています。そこで民間の力を借りてキッチンカーを誘致することを考えており、密を避けながら1日中楽しめる場所にしていきたいと考えています。また、アグリパークは犬を連れて散歩する方が多くいらっしゃいますので、ドッグランの誘致や犬の育て方教室などについても実施の可能性を検討しているところです。

質問・意見⑤

(委員)

直売所の野菜について、私も出店者の1人として、絶えず野菜の本を読みながら新しい野菜を育てていますが、売れるようになるまでに何週間もかかります。皆さんがどのように調理されるのか分からない野菜もありますので、食べ方などをPRできる場所があり、お客さんに教えてあげられることができれば、もう少し売れ行きがよくなるのではないかと感じています。また、杉戸産が40%との回答がありましたが、町外からは沢山の量の野菜を持ってきますので、その分、値段が安くなります。これは町内の出荷者にとっては悩みとなっていますので、その辺りの調整をしていただけると助かります。

また、花屋のあった場所は何か新しいことを考えているのでしょうか。

(農業振興課長)

食材を調理するレシピについては、健康支援課の管理栄養士から珍しい野菜の調理方法などを聞いて、野菜の近くにレシピを置いております。食べ方についての情報を提供してあげることが大切な事であると考えております。また、町内と町外の出荷者の関係については、基本的には町内優先としていますが、出荷手数料を町内16%、町外20%として調整を図っております。

花屋の場所については、当初はガラス温室として南国の植物園を考えておりましたが、花屋として営業を続けてまいりました。現在の直売所の方へ移転することについて反対の意見もありましたが、直売所の動線となっていることから以前より1.7倍売れています。以前あった花屋の場所については、ドッグランの受付場所などの活用方法も考えており、民間に貸し付けて収益を得ることで公園整備などに利用できれば良いと考えております。

質問・意見⑥

(委員)

デジタルサイネージの導入について、情報はどのくらいのサイクルで更新をされていますか。

また、幼稚園で芋ほりをさせていただいていますが、体験できることは子ども達に良い影響を与えており、とても素晴らしいと感じております。大変人気があり、東京の方から芋ほりに来る人もいと伺っています。ただし、数年前だったと思いますが「アグリパークゆめすぎとは関東地方で1位になった施設なので、何も変えていかなくて良い」といったような話を直接伺ったことがあります。このような考え方を持っているとその先の発展が難しくなってしまいます。先ほど補助金の活用についての意見がありましたが、補助がなければ自立して実施していくべきだと思います。補助金に頼った仕事の進め方では、「1位だから何も変えていかなくて良い」といった話と同じになってしまうと思います。農業振興課長から沢山の考えをお聞きしましたが、「ゆめすぎと」の「ゆめ」の部分が無くなってきているように思います。以前は施設の奥の方にヤギが飼われていたように記憶していますが、子ども達が抱っこしたり餌をあげられるなどの体験できる場所が東京の方では人気があるようですので、整備の検討をしていただきたいです。例えば、群馬県の「川場田園プラザ」では、1回行くだけではなく観光に2回も3回も行ってみたいと思える魅力があります。ブルーベリーを無料で摘ませてもらったり、ミルク工房やミート工場、

地ビールのお店など、小さなお店がたくさんあることから1日では回り切れなくらいです。そのような方法で自立の道が開けてきていると思います。アグリパークは地元にある素晴らしい施設だと感じておりますので、予算を理由にできないのではなく、自立できるような素晴らしい施設にしていきたいです。

(農業振興課長)

デジタルサイネージについては商工観光課でソフト面の管理をしております、2年に1度の町の推奨土産品を交換するタイミングで情報の更新を行っています。

また、動物広場につきましては平成13年にオープンした際に、東松山の動物公園から動物を頂いてきましたが、動物を屋根なしで飼っているため動物愛護上の問題があると幸手保健所から指摘を受け、最終的に全て処分をしております。動物の管理者がいて、しっかりとした管理ができれば動物との触れ合いのできる魅力ある公園の1つになったものと考えます。

魅力とは時代に合わせて、地域の流れに合わせて変えていかなければなりませんので、アグリパークゆめすぎとも変えていかなければならないと考えております。

質問・意見⑦

(委員)

アグリパークの採算状況はいかがでしょうか。また、道の駅情報を知る方法はホームページかSNSだと思いますが、たくさんのアグリパークの情報を発信していただくと良いと思います。また、アグリパークほど子どもを遊ばせたり、ゆったりとできる場所は、この近辺にはないと感じています。ただし、バーベキュー場の活用はあまり見たことがないので、観光交流拠点として人々の交流を増やす取組や働きかけをお願いしたいです。

(農業振興課長)

アグリパークの経営については、コロナ禍でもあり収支の関係は少し赤字となっています。これまでの蓄えがございますので、しばらくは補っていきたいと考えています。また、開園して20年が経過し、冷蔵庫などの大きな備品が壊れてきており、出費を伴っております。経営についてはコロナから回復できれば再び黒字にしたいと考えております。

また、情報発信については、ホームページやツイッターを常時更新していますの

で、是非、ご覧いただきたいと思います。

バーベキュー場については、アグリパークが受付をしておりましたが、昨年から「BBQ太郎」という事業者にお預かりをしております。3,500円を払えば肉・野菜のセットの他、コンロに火を付けてくれます。手ぶらでバーベキューができるようになっておりますので、コロナウイルスが無くなりましたらご利用いただきたいと思います。

③ 仕事と子育ての両立支援事業

質問・意見①

(委員)

町立幼稚園預かり保育事業の実績について、常時利用者の方は「2号認定」の方だと思いますが、1日当たりでは5名弱程度の人数になるかと思います。14時から17時までの時間帯の預かり事業になりますと、パートタイムの方であれば利用ができますが、「2号認定」の方で正社員として仕事をされている方では利用が難しいと思います。

(子育て支援課主幹)

月に48時間以上の就労をされている保護者の方を「2号認定」の対象としております。保護者の状況によっては就労時間が17時では終わらずに、19時までの保育を希望する声もあります。パートタイムの方以外は利用しにくい実情もございますが、パート等の就労をされている方で幼稚園の預かり保育へのニーズが多かったことから、まずは現在の内容で事業の実施をしております。コロナ禍の社会状況の変化により保護者の就労形態も変化してきておりますので、必要に応じて見直しを検討していくことも考えております。また、保育園は朝7時30分から預けることができますが、幼稚園は朝9時からとなりますので、早朝においても保護者の保育ニーズに応じていくための検討も必要になってくるものと感じております。御質問のありました保育時間については時代の流れに応じて検討をしていきたいと考えております。

(委員)

意見でございますが、私どもの幼稚園でも預かり保育を実施しています。今日は73名をお預かりしました。町立では1日5名弱程度と計算をしましたが、ニーズ

はそれだけあることを御理解いただきたいです。私どもの幼稚園では定員がいっぱいで預かれない状況になっています。働く保護者の手助けになることが子育て支援だと思しますので、町立幼稚園の方で預かり時間の見直しをしていただければ、もう少し希望される方の受け入れが可能になるのではないかと思います。

質問・意見②

(委員)

毎月、町の広報を見る際には最初に人口を確認しますが、転入・転出に関して転入者が多い月は年1回くらいだと思います。今年は6月1日付けで転入増となりました。原因がお分かりでしたら教えてください。

また、令和3年10月から予定の満3歳児保育事業では10名の申込みがあったとのことですが、受け入れ予定人数がありましたら教えてください。

(事務局)

町内で大規模な宅地造成が進んでおり、令和2年度末辺りから転入者が増えてきている状況です。また、政策財政課では、令和3年4月1日から子育て世帯の移住や定住のきっかけとするため、奨励金の制度を開始しました。少しずつ申請件数も増えてきており、町内では子育て世帯が増えつつあると感じています。

(子育て支援課主幹)

子育て支援課では0歳児から未就学児までの動向を確認しており、未就学児までは転入超過の傾向が数年続いています。町の子育て支援策も転入超過に影響を及ぼしているものと考えております。

また、満3歳児クラスの申込みにつきましては、現在の町立3園の3歳児クラスの空き状況に応じて、受け入れる人数を決定する予定です。現在、3歳児クラスは西幼稚園が20名、中央幼稚園が20名、すぎと幼稚園は2クラスありますので40名の定員としていますが、今回の申込みをされた10名につきましては、入園可能な人数と考えております。

(委員)

10月から満3歳児保育として入園したものの、来年4月から3歳児クラスへの入園ができないということもありえますか。

(子育て支援課主幹)

来年度の3歳児クラスの入園に当たり、園児数が増えた場合にはクラスを増やして対応をしたいと考えております。

質問・意見③

(委員)

ファミリー・サポート事業について、有償となっておりますがどの程度の負担を伴いますか。

また、町立幼稚園預かり保育事業について、対応する保育士の確保が難しいようですが、町立としてはどのようなところが厳しい状況となっておりますか。特に満3歳児保育事業が始まると更に忙しくなると思います。

また、保育園の完全給食について、すぎと保育園と併設しているすぎと幼稚園は、給食の検討をされていますか。保護者から給食のニーズなどは出ていますか。

(子育て支援課主幹)

ファミリー・サポート事業につきましては、平日の利用料金は、7時から19時までが30分当たり350円となります。休日の利用料金につきましては、30分当たり450円となります。そのほか、送迎を行った場合には距離に応じた金額を設定したり、お子さんが2人いる場合には2人目を半額としています。

また、職員の確保につきましては、定期的に人事部門と調整を図りながら保育士や教諭の確保に努めています。会計年度任用職員制度も始まり、処遇が改善されておりますが、近隣市町においても保育士等が不足していることからお互いに取り合う状況も生じており、募集をかけても集まりにくくなっております。

また、すぎと保育園・すぎと幼稚園の併設施設での給食提供につきましては、すぎと幼稚園の保護者から給食提供のニーズについてのご意見も出ております。幼稚園といたしましては、保護者がお弁当を作ることにより、食育を伝えることや愛情を注ぐことができますので、保護者への教育にもつながるものと考えておりますが、今後の就労形態や保護者のニーズについても注視していきたいと考えております。

質問・意見④

(委員)

行政サービスを提供している職員の離職や残業時間、休暇の取得などはどのような状況となっていますか。

また、病児保育事業について、どのような経緯で「とんことり」を実施するに至ったのですか。

(子育て支援課主幹)

処遇につきましては、保育士・教諭ともに5日間の夏休みや、平均で10日程度の有給休暇を取得できております。また、子育てをしながら働く職員もおりますので、自分のお子さんの行事等で休暇が必要な時には、周囲の職員の協力を得ながら休暇を取得されているようです。離職については、結婚により勤務地までの距離が遠方となったことによる離職があります。業務が多忙で離職されてしまう方は最近ではございません。時間外勤務は月平均で1人5時間程度となっております。

病児保育室「とんことり」につきましては、平成16年頃から事業を実施しており、平成27年頃から幸手市の方でも利用が出来るようになりました。手元に資料が無く詳細についてのお答えができませんが、事業を開始したきっかけは、町と井上小児科皮膚科との間に、就労と子育ての両立を叶えていくことや地域が一体となって子どもを育てていくことについての意向があったものと思います。